社会福祉法人ともに福祉会 児童発達支援センターまる 支援プログラム

学業時間			9:30	~	15:30	送迎実施の有無	有り	
法人理念・多		多くの関係	人ひとりを主人公にした。 系者の願いを反映した運	 単密をすすめる。 単密をすすめる。	15.30		特り	
集団生活障害の特施設の事		集団生活/障害の特性施設の専門	当たり前に暮らせる地域づくりを目指す運営をすすめる。 「たくの適応訓練(知育遊び・粗大遊びを通じた専門療育)等を交えた集団生活を通して、人とのふれあいの場を提供していく。 特性・発達段階に合わせた療育活動を通して、心身機能の維持・感覚能力の増進を図る。 『門機能を生かし、障害児やその家族児童・支援者・機関へのアドバイスを行う。 『そ必要とする児童に対して、必要な専門的機関と連携をすることで家族の不安やお子さんの療育環境を整える役割をする。					
支援内容								
対象児			I		п		ш	
項目発達年齢	項目		O歳~1歳		2歳~3歳		4歳~6歳	
7 57 7 57			・健康状態の観察 ・ 像	建康状態に合わせ専門的な機能を活用	した重層的な支援 ・生活!	リズムや生活習慣の形成	・基本的生活スキルの獲得 ・栄養管理	
本人支援	健康・生活		・スプーンから飲むこと ・ピスケットを自分です ・自分でコップを持って ・スプーンを使う ・本人の口腔機能に応し ・食事に対する意欲を引	まつ て飲む ひた食事提供 受け止める	 排尿を教える 靴を履く 靴を脱ぐ ボタンかけ おはしを使う 	いて口をすすぐ で身体を洗う で身体を洗う でけんでに行く いができる	・歯を磨いて口をすすぐ・お風呂で身体を洗う・自分で洋服を着る・トイレの始末が出来る・おはしを使う・お手伝いが出来る	
	運動・感覚		・姿勢と運動 ・動作の向上 ・姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ・保有する感覚の総合的な活用 ・本人の機能に応じた座位・立位の安定					
			・寝返りをうつ ・ が ・支えなしで座る ・ 」	-人で歩く ドールを蹴る 上手でボールを投げる その場でジャンプする	・ボールを蹴る・上手でボールを投げる・ジャンプする・つかまらずに階段昇降・三輪車がこげる・片足ケンケン・でんぐり返し		・片足ケンケン・でんぐり返し・スキップ・補助付きの二輪車にのる	
			・認知の発達と行動の習得 ・空間・時間、数等の概念形成の習得 ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得					
	認知・行動		触れたものを握るガラガラを握るガラガラを振り回す自発的につかむ持ち替え両手にもつ		・ぐるぐる曲線を書く ・形がわかる ・一つの〇を描く ・顔らしいものを描く ・がせきできる ・ごっこ遊びが始まる ・見立て遊び ・積み木でトンネル等をつ	o<8	・思ったものを絵に描く ・ハサミで形を切り抜く ・折り紙で飛行機などを作る ・左右がわかる	
	言語		・言語の形成と活用 ・言語の受容及び表出・コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・コミュニケーション手段の選択と活用空間・時間、数等の概念形成の習得					
	コミュニケーシ	ノヨン	・あやすと笑う ・赤ちゃん言葉を話す ・バイバイをする ・ママパが(等喃語をい ・簡単な指示理解ができ ・簡単な問いかけに言す ・二語文を話す	5 8	・簡単な問いかけに言葉で ・二語文を話す ・姓名を話う ・大小がわる ・色の識別がわかる ・会話が上手になる ・数を理解して3まで数え		・会話が上手になる ・数を理解して3まで数える ・数を理解して10まで数える ・文字が読める ・時間がわかり始める	
			・他者との関わり(人間関係)の形成 ・自己の理解と行動の調整					
	人間関係。社会性		・いないいないばあをき・人見知り・大人の動作の真似・名前を呼ばれて返事す		・電話ごっこをする ・友達と喧嘩をすると言い ・年下の子どもの世話を焼 ・ままごとで役を演じるこ ・「こうしていい?」と ・ 友達と順番に物を使う ・ 母親に断って友達の家に	きたがる ことが出来る F可を求める	 ・じゃんけんで勝負を決める ・砂場で2人以上で協力し、1つの山を作る ・鬼ごっこのルールがわかる ・2~3人で内緒話をする ・紅白の競技で勝敗がわかる ・禁止行為をした子どもに注意する 	
	地域支援•地域連携		支援を利用する子供が地域で適切な支援を受けられるよう、関係機関と連携し、地域の子育て支援力を高めるためのネットワークを構築する					
(地域交流・園外活動)		家庭以外の調	易所での活動を体験する。	お買い物等を通して社会参加]への体験をしていく	様々な場所で遊ぶ経験やお買い物、 動を体験する。	お当番など主体的に動ける活	
移行支援家族支援			地域の保育、教育等の中で適切な支援が受けられるように、また、同年代のこどもを始めとした地域のおける仲間づくりを図っていく。					
		親の就労に合わせ、保育園との併用をすすめていく 友達への興味関心や排泄の自立など本人の様子に合わせて、幼稚園等を進めていく。						
		・子どもを育てる家族に対して、障害の特性に配慮し、子ど もの「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に、丁寧な「家族支援」を行う。また、保育解放の参観日に、 職員と家族が交流できる機会をつくる。(家族の参観希望を優先する) ・栄養指導を通して、こどもの育ちを支えていく。・家庭での遊びの有効性や生活リズムにの定着に向けて、専門職からのアドバイスの機会を設ける。(栄養士・言語聴覚士・ 心理士・医師・看護師等)						
		こどもの「できた」を く	も有し、愛着形成できるよう促してい	家族の抱える困りごとを- 安定をはかる	-緒に考え家族の気持ちの	就園や就学に向けた支援を行って	ていく。	
職員の質の向上			・定期的な職員会議やケース会議の実施。 ・新人職員研修・事業所内研修の実施・役職に合わせた研修プログラムの実施・外部研修への参加					
主な行事等		【毎月】 【行導・誕生会・夏男・健康診断・選撃・防災訓練・卒団	終り • 買い物体験 助会 • 外食体験	Jy sarry			PERU PERU	
						() Draw		##B0005#0848